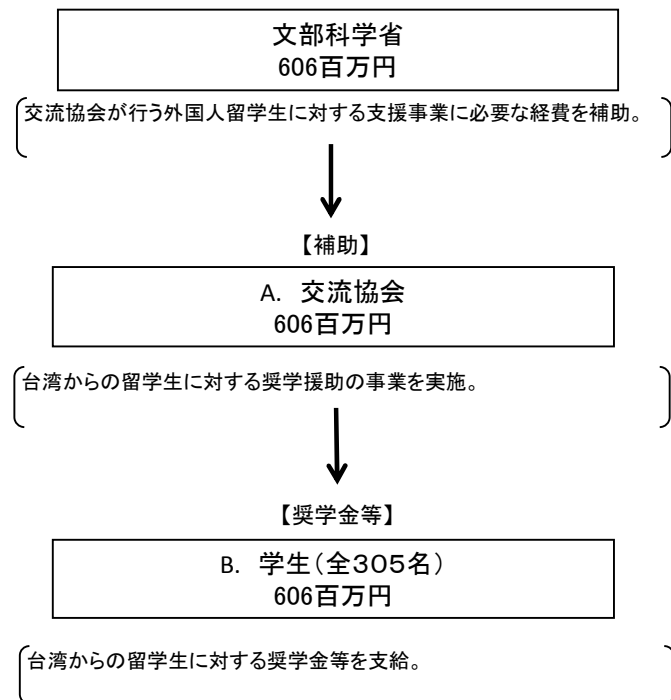


平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)									
事業名	交流協会		担当部局庁	高等教育局			作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和47年度		担当課室	学生・留学生課 留学生交流室			学生・留学生課長 松尾泰樹		
会計区分	一般会計		施策名	XIV-1 国際交流の推進					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計画、 通知等	「留学生30万人計画」骨子(平成20年7月29日策定) 「新成長戦略」(平成22年6月18日閣議決定)					
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	1972年の日中国交正常化に伴い、我が国は台湾と断交したが、外交を除く従来の関係を維持するための民間レベルの交流団体として、財団法人交流協会(現公益財団法人交流協会)が設立された。この交流協会を通じた、台湾からの留学生に対する奨学援助を支援することによって、日台間留学生交流の一層の拡充を図り、相互の教育・研究水準の向上に資するとともに、相互理解と友好親善を増進することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	これまで、日本の大学で研究指導を受けている若しくは受けようとする台湾からの長期留学生、及び、留学期間が3月以上1年未満の短期留学生に対し、交流協会を通じて奨学金等の援助を行ってきたところ。(定額補助) 平成24年度から、交流協会が新たに学部レベルの学生を対象とする奨学援助を実施することに伴い、それらを含めた奨学金等の援助を行う。								
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		補正予算	0	0	0	0			
		繰越し等	0	0	0	0			
		計	692	674	606	596	619		
	執行額		665	674	606				
	執行率(%)		96.1%	100.0%	100.0%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	台湾からの優れた人材を我が国の高等教育機関で受け入れることにより、国際交流に貢献するとともに、将来を担う人材の育成に資する。		成果実績						
			達成度	%					
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	台湾からの受入れ留学生に対する奨学金等支給者数(①長期②短期③学部)		活動実績 (当初見込み)	人	①249 ②92	①249 ②79 (①251②80)	①227 ②78 (①229②80)	— (①229②80 ③10)	
単位当たり コスト	1,987(千円/人)		算出根拠	H23年度執行額(605,918千円)/受入れ留学生数(305人)					
平成24・25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	奨学金等	590百万円	613百万円						
	渡日及び帰国旅費	6百万円	6百万円						
	計	596百万円	619百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本事業は、「新成長戦略（平成22年6月閣議決定）」等に掲げる質の高い外国人学生の受入れに貢献すること、国際的な教育交流及び相互理解の増進を目的とするものであることから、国が実施すべき優先度の高い事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	本事業は、日台間の国際相互理解の促進に寄与することを目的とする公益財団法人交流協会が、留学生受入れに関する豊富な実績とノウハウを有していることから、同協会に補助金として予算措置している。 費目や使途は、留学生に対する奨学金等に限定されており、受益者との負担関係の妥当性、資金の流れの支出の合理性においても問題はない。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	活動実績は見込みに見合ったものであり、台湾の優秀な留学生の継続的な受入れにつながっている点から、本事業の実効性は高い。国際交流に貢献するとともに、将来を担う人材の育成に資するという成果目標にもつながるものである。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名 —	
—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	・本事業により、公益財団法人交流協会を通じて、台湾からの留学生に対する奨学援助を行い、平成23年度においては300名を超える留学生に奨学金等を支給しており、東日本大震災の影響が続く中でも、留学生を通じた台湾との国際交流が着実に進んでいる。 ・しかしながら、元奨学金留学生の継続的なフォローアップの実施が課題であり、大学や交流協会との連携強化を図ることが必要である。経費の執行に関しては、事業年度毎に公益財団法人交流協会から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っており、引き続き、適切な支援と管理を行っていくことが必要である。 ・平成24年度においては、過去の執行実績等を踏まえ、予算規模を減額している。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	1. 事業評価の観点：本事業は、台湾との断交により、民間レベルの交流団体として設立された(財)交流協会に対する台湾からの留学生に対する奨学援助を目的とした補助事業であり、長期継続事業の観点から検証を行う。 2. 所見：本事業は、(財)交流協会で行えない事業であり、奨学金受給者に係る必要額を適正に算出しつつ、現行の事業内容を維持すべきである。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
現状通り			
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0408	平成23年行政事業レビュー	0179

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者について 記載する。費目と使途の双方 で実情が分かるように記載)	A. 交流協会			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	事業費	奨学金	464			
		授業料	137			
		渡日及び帰国旅費	6			
	※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。					
	計		606	計		0
	B. 学生A			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	奨学金	奨学金	2			
	授業料	授業料の支払い	1			
	計		3	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	交流協会	台湾からの留学生に対する奨学金等の支給	606	—	—

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学生A	奨学金等の援助	3	—	—
2	学生B	奨学金等の援助	3	—	—
3	学生C	奨学金等の援助	3	—	—
4	学生D	奨学金等の援助	3	—	—
5	学生E	奨学金等の援助	3	—	—
6	学生F	奨学金等の援助	3	—	—
7	学生G	奨学金等の援助	3	—	—
8	学生H	奨学金等の援助	3	—	—
9	学生I	奨学金等の援助	3	—	—
10	学生J	奨学金等の援助	3	—	—